SUBARU

2016 年 10 月 17 日発行 通巻 58 号札幌稲雲高校図書局

3学年

3 年女子
「あやし」
宮部　みゆき　角川文庫

宮部みゆきといえば『ミステリー』と思う方が、きっと多いでしょう。しかし、この本は奇談小説集。そう、『和製ホラー』なんです。九編の恐ろしくも美しい江戸ふしぎ話が詰まっています。ただ怖いだけじゃない上質な恐怖を読者にもたらしてくれるでしょう。後味の悪い話は一切ありません。熱い夏にお勧めのヒンヤリできる本ですよ。ぜひ、お手に取って読んでみて下さい。

3 年女子
「左京区七夕通　東入ル」
瀧羽　麻子　小学館文庫

京都での大学生活も４年目を迎えたある夜、東京出身で文学部の花は超理系男子「たっくん」に出会う。花にとって理系男子であるたっくんやその周りの人々はどこか不思議な印象。しかし花は少しずつたっくんに惹かれていく。恋敵は数学!?　文系女子と理系男子の甘酸っぱい恋の行方とは…読んだ後に胸がキュンキュンすること間違いなし！古都京都が舞台の恋愛小説、必読です。

3 年女子
「女生徒」
太宰　治　角川書店

太宰治の作品といえば、「走れメロス」や「人間失格」のような男性が主人公の作品が有名ですが、実は女性一人称の作品がたくさんあります。それらが収録されたのがこの「女生徒」です。女学生の朝起きてから寝るまでの一日を描いたこの作品は、時代や生活が違っても共感できる要素がたくさんあります。太宰治の繊細な感性で描かれた「女生徒」を高校生の今、読んでみるのはいかがでしょうか。

3 年女子
「一九八四年」
ジョージ・オーウェル　早川書房

＜ビッグ・ブラザー＞率いる党が支配する全体主義的近未来。この監視社会に疑問を持ったウィンストン・スミスは、ジュリアと恋に落ちたのをきっかけに反政府地下組織に惹かれるようになる。結末がハッピーエンドではなく、大変後味が悪いですが、それを超える面白さがあります。少し内容が難しいので、自分の思考力を鍛える良い機会にもなると思います。二十世紀世界文学の最高傑作、是非読んでみて下さい！

3 年男子
「確立捜査官御子柴岳人　密室のゲーム」
神永　学

この本は神永学の作品でとても面白いです。数学者の御子柴が数学的な考え方で事件の犯人を探していく物語で、新しい犯人の探し方が新しいなと思いました。神永学さんの作品は面白いので読んでみて下さい。

3 年男子
「世界から猫が消えたなら」

主人公は病気によって余命僅かになってしまいます。何か一つ物を失うことで寿命が一年延びるという契約を悪魔と交わしてしまいます。普段あたりまえのようにある物が消えると人はどうなるのでしょうか。物を失って初めて大事なことに気付く主人公。この本を読むことで様々な教訓が得られます。うるっとくる本です。

3 年女子
「響け！ユーフォニアム　北宇治高校吹奏楽部へようこそ」
武田　綾乃　宝島社

アニメ化もしたこの作品は、皆さんも知っている人が多いのではないでしょうか？この物語では吹奏楽部を舞台とした、部員達のソロを巡った争い、高校生ならではの恋愛など、波乱万丈な日々が描かれています。果たしてコンクールの結果は…？現役吹奏楽団員の私がオススメします！ぜひ読んでみてください！

図書局員のオススメ!!

八咫烏シリーズに乗り遅れるな！！

みなさんは阿部智里の『八咫烏シリーズ』を知っていますか？この第一作品目の「烏に単は似合わない」で、松本清張賞を受賞しています。

現在このシリーズは第五弾まで刊行されており、どれも累計６０万部を超えている大ヒットシリーズです。人間の代りに八咫烏の一族が支配する世界を舞台にしたお話です。ファンタジーでありながら、謎解き要素もあり、ミステリー好きにもおすすめしたいです。

本校の図書館には、刊行されているものは全て揃っています。この本を読むと、カラスの見方が変わるかもしれません。ぜひ、読んでみて下さい！　（２年女子）

数学好きは必見！

私がオススメする本は、結城浩氏の「数学ガール」シリーズです。

まず何が面白いかと言えば、登場キャラの掛け合いです。数学が好きな平凡な高校生「ぼく」と、エレガントな解法でぼくを打ちのめす才媛、ミルカさん。真剣に問いを投げかける元気少女、テトラちゃん。それぞれが独特の個性を持っていて、とても面白いです。

数学好きにはたまらない内容です。数学が苦手、もしくは嫌いな人でも、かなり楽しめるものとなっています。また、この本で扱っている数学の内容は、小学生にも分かるものから、大学生でも難しいものまであり、様々な問題が出てきます。

もし数式の意味が分からなくても、物語を追ってみるだけで、とても面白いです。「数学」という言葉に惑わされずに読んでみてはいかがでしょうか？
あなたも数学の魅力に取りつかれるかもしれません。

（１年男子）

ぼくらの七日間戦争

私がお勧めするのは宗田理さんの「ぼくらの七日間戦争」から続く「ぼくらのシリーズ」です。この物語の主人公は「菊池英治」をはじめとする東京下町にある中学校の１年２組の男子生徒全員で、河川敷にある工場跡に立てこもり、そこを解放区として大人たちへの「叛乱」を起こす物語です。主人公の恋や「解放区」の結末、色々な大事件が起こってそれぞれを鮮やかに、そして痛快に描写している所がとてもおもしろいです。その大事件の後で広がった人脈を使って、この後のシリーズが繰り広げられていきます。

図書室にもあるのでぜひ読みに来てください。

（１年男子）

悲劇シリーズ

私がおすすめする本は通称「悲劇シリーズ」と言われる推理小説です。このシリーズはミステリーの巨匠エラリイ・クイーンが書いたもので元俳優の探偵ドルリイ・レーンが難事件を解決していくといった話です。レーンの巧みな推理や登場人物の感情、舞台となる土地や建物の雰囲気がクイーンによって見事に描かれています。このシリーズは「X の悲劇」「Y の悲劇」「Z の悲劇」「ドルリイ・レーン最後の事件」の４部作で構成されています。

その中でも特におすすめしたいのは「Y の悲劇」です。「Y の悲劇」はある一家にまつわる殺人事件なのですが事件の謎の不可解さや、その一家の不気味さがありありとこちらに伝わってくるのです。さらに事件の真相は数あるミステリーの中でも特に驚かされる物でした。興味が湧いたならぜひ、このシリーズを読んでみて下さい。　（１年男子）

芥川賞と直木賞のフェアやっています！

『芥川賞』
各新聞・雑誌(同人雑誌を含む)に発表された純文学短編作品中最も優秀なものに呈する賞。
代表作には、「火花」〈又吉直樹〉「蛇にピアス」〈金原ひとみ〉「蹴りたい背中」〈綿矢りさ〉「異類婚姻譚」〈本谷有希子〉など

『直木賞』
各新聞・雑誌(同人雑誌を含む)あるいは単行本として発表された短編および長編の大衆文芸作品中最も優秀なものに呈する賞(応募方式ではない)。
代表作には、「容疑者 X の献身」〈東野圭吾〉「ホテルローヤル」〈桜木紫乃〉「理由」〈宮部みゆき〉「下町ロケット」〈池井戸潤〉など

※上記の本は図書館にあるのでぜひ来てください！